○令和4年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立東岡山工業高等学校

具体的な学校経営目標	具体的計画	主な担当分掌	今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価	
				達成状況(9月30日現在)	評価	達成状況(1月31日現在)	評価
学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開する ICTを活用した学習活動、基礎学力の定着、授業以外の学習時間の充実にむけた取組(課題、レポート、資格学習)を行う 教育活動の中で、持続可能な未来のために、気づき、考えるきっかけづくりを行う(SDGs) 	教務課 OJT研修チーム 情報管理部	ICT整備を拡充し、全体、各教科、OJTチームでの研修を進めることで、様々な学習場面でICT活用が進む。	ICT環境については各教室にウェブカメラを設置し、さらに拡充に向けて計画中である。2学期にはICT研修や全校ICT授業、授業参観を通して実践的な授業提案を行う。	B	特別教室や各専門科棟へのアクセスポイントの設置と、オンライン配信設備のさらなる充実も行った。11月の参観授業期間、12月のオンライン授業、OJT研修での授業研究でICT活用を積極的に行った。教員の活用能力も向上している。	A
		全教科学年団	東工型学習スタンダードに基づくICTを活用した授業を展開することや、授業の振り返りを丁寧に行わせることで、学びが深まり、学習内容がより定着するようになる。ICTを活用して、生徒の学習状況に応じた課題を工夫することで家庭学習の習慣化を図り、基礎学力の向上や資格・検定の受検者が増加する。特に専門科ではSDGsを意識した授業を行う。	頻度の差はあるが、各教科でICT活用を実践している。授業以外でも課題配信や提出等での活用が進んでいる。	B	ほぼすべての座学と一部実習科目でもICTを活用し、主体的・対話的で深い学びに寄与した。欠席者への配信授業については視聴しない生徒も見られ、課題が残る。基礎学力向上に関しては新たな取り組みとして1年生でClassiを取り入れたり、他学年でも月曜7限を活用して、学力向上に努めた。課題提出状況は概ね良好だが、一部提出できない生徒がいる。	B
ものづくり教育	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりや資格取得により、専門性を育成する 	資格推進部 専門科	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりコンテストで上位入賞を果たす。 計画的に資格を取得する。 	ものづくりコンテストでは4学科で中国大会出場。工業化学科は全国大会に出場が決定した。ロボットコンテストでも全国大会に出場する。各専門科で資格取得を目指しているが、今のところ合格率は例年より若干低めである。	A	ものづくりコンテストでは4学科で中国大会出場。工業化学科は全国大会に出場した。ロボットコンテストは全国大会出場、製図コンクール最優秀特別賞、全日本ゼロハンカー大会4位、ジャパンマイコンカーラリー全国大会4位など、優秀な成績を収めた。資格取得については受験者数、合格率とも昨年度よりも下降した。	A
	<ul style="list-style-type: none"> 専門高校として、安心・安全な学習環境を構築し、5s(整理・整頓・清掃・清潔・躰)運動を推進する 	専門科	整理整頓を心がけ、安全に授業を行う。	各専門科で環境整備、安全教育を実施している。	B	各科で安全チェックリストを作成し、実習開始時に生徒とともに確認するなど安全管理の徹底ができた。	A
豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活において、さわやかな挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法の習慣化に向けた取り組みを行う 	生徒課 学年団	授業前後や部活動、挨拶運動を通して指導・実践していくことで、学校評価アンケートの該当項目の肯定的な評価が80%以上となる。	積極的に挨拶できる生徒が増えているが、一部消極的な生徒もいる。	B	挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法もついて習慣化できた。学校自己評価アンケートでも、生徒、保護者、教員いずれも約9割が「積極的に挨拶をしている」と答えている。	A
	<ul style="list-style-type: none"> 部活動、生徒会活動を通して心身の育成や豊かな人間性を育てる 	生徒課	1年生全員入部。年度末にSDGsに関するアンケートの収集を行い、全員がSDGsに関して理解できるようになる。	SDGsに関する取り組みは、継続して実施していく。	B	今年度のSDGsに関する取り組みは、生徒へ向けた講演会などであった。来年度は生徒から何か発信できるような取り組みを実施していきたい。	B
	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識と思いやりの心、健やかな身体の育成と安全教育を推進する 	教育相談課 管理厚生課 保健体育科 情報管理部 学年団	人権教育講演会や日常の清掃活動等を通して、学年やクラス全体で仲間を尊重し、学習環境を整え、自己管理能力が育ち、安全な行動がとれるようになる。	生徒は比較的落ち着いた学校生活を送っている。人権教育や学校生活アンケートでは肯定的意見が9割程度に上った。	B	各部署での様々な取組により、規範意識や他を思いやる心は育成できた。生徒の自己評価でも肯定的回答が9割以上である。一方で支援を必要とする生徒は格段に増えており、連携協力しながらなんとか対応しているが、人員不足は否めない。	B
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育(企業見学、インターンシップ、卒業生との交流等)を推進し、一人ひとりの進路実現の充実を図る 	キャリア教育研究委員会 進路指導課 学年団	実施可能な範囲でのインターンシップ参加や進路講演会・工場見学等の実施や、キャリアパスポート等の活用により、生徒自ら適性を生かした進路決定を行うことができるようになる。	夏季休業中を主にインターンシップを実施した。希望者164名のうち、142名が54社へ参加。コロナ禍以前を上回る参加規模で実施することが出来た。卒業生を囲む会も各専門科で実施できた。	A	2年生でインターンシップに半数以上参加し、報告会ができたほか、学年ごとの取組で進路意識を高めることができた。最終的に3年:就職71%進学29%(実績)、2年:就職68%進学21%(希望)、1年:就職68%進学24%(希望)となっている。	A
地域連携による教育	<ul style="list-style-type: none"> 近隣大学や地域の外国人とコミュニケーションをとったり、異文化理解を深めたりする機会を設け、語学と国際理解に関する力を伸ばす 	グローバル人材育成	年に2回以上、講演会または地域の外国人とものづくり等を通じた交流会を実施する。	県国際交流員による「国際理解講座」を実施し、プロジェクトメンバー51名が参加した。日本と韓国の文化の違いについて学んだり、多様な価値観に触れたりして、生徒の視野を広げる機会を与えることができた。	B	ALT対象「ものづくり教室in English」等、外部と連携しながら当初の目標の年2回以上の行事を実施できた。生徒アンケートの結果からも「語学力」「コミュニケーション能力」「異文化理解」「チャレンジ精神」「地域貢献」について、それぞれの力が向上したという肯定的な回答が増加した。	B
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小中学校等に出向くものづくり教室や、町内会と連携した地域清掃等のボランティア活動をおして視野を拡げ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神を育み、社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身に付けさせる 	キャリア教育研究委員会 生徒課 専門科	実施可能な範囲での地域貢献活動や出前講座、科学教室へのボランティア参加により、社会貢献を意識した考え方ができるようになる。	1学期に予定していた出前授業はコロナ禍で中止になったものが多かった。2学期以降は実施に向けて計画が進んでいる。	B	中山中学校、幡多小学校、角山小学校、竜之口小学校、佐伯中学校で出前教室を行った。また岡山空港でもものづくり教室を実施できた。地域清掃にも参加者が多く、学校行事として復活させることができた。	B
教育活動の発信	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール、ホームページ、中学校訪問等の広報活動を充実する 	総務課	中学2年生も対象にしたオープンスクールを実施し、HPを今年度用に更新する。	中学2年生が当初の見込みより多く参加した。中学3年生の参加数も増加した。今年度の写真が使われたHPに現在更新中である。	B	オープンスクールの参加数が夏・秋ともに増加した。今年度の写真が使われたHPに現在更新中である。	B
校内組織の活性化と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校組織の業務効率化の推進(分掌の見直し、勤務時間の軽減)する 	各課	分掌間、分掌内で業務の平準化が進み、時間外業務時間が月平均5時間減少している。	担当を決めて仕事を分担している部署が多いが、教務課では時間割ソフトを導入したり、部署によっては業務終了後に反省と次年度への改善点を検討したりするなど、効率化が進みつつある。	B	各部署で行事の見直しや情報の共有化を図ったが、業務の効率化にまでは至らなかった部署もある。朝の欠席・遅刻連絡をオンラインに変更したことは大きな業務軽減となった。	B
	<ul style="list-style-type: none"> OJTによる人材育成・技術伝承の推進をする 	OJT研修チーム 各課 専門科	OJTや若手教員とベテラン教員とのTTをより積極的に行うことで、全教職員の人材育成や技術伝承の必要性への意識が高まり、その結果、若手教員が実習や課題研究等の授業をより円滑に行えるようになる。	OJTは中堅研・16年目研の教員が中心となり、若手教員の指導を継続的に行っている。ベテラン教員による若手教員への実習等の技術研修(伝承)は長期休業中にある程度行うことができたが、今後も継続的に実施していきたい。	B	データの共有や協議により、人材育成・技術継承を進めている。実習のTTや外部講師の活用等も取り入れて人材育成を進めることができた。	B